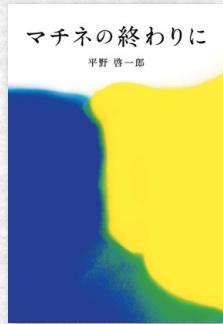


平野啓一郎の書籍紹介



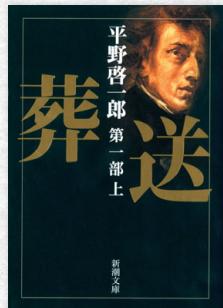
「マチネの終わりに」 毎日新聞出版 1,836円

出会った瞬間から強く惹かれ合った天才ギタリストの藤野と通信社記者の洋子。しかし、洋子には婚約者がいた。深く愛し合いながら一緒になることが許されない二人が、再び巡り逢う日はやってくるのか—。芥川賞作家が贈る、至高の恋愛小説。



「透明な迷宮」 新潮社 1,620円

深夜のブダペストで、堕落した富豪たちに衣服を奪われ、監禁されてしまった日本人カップル。悲劇を共有し真に愛し合うようになった二人が彷徨い込んでしまった果てしない迷宮とは? 美しく官能的な悲劇を描く最新小説集。



「葬送」 新潮文庫 第1部(上)594円 第2部(上)679円 第1部(下)594円 第2部(下)679円

天才ピアニスト・ショパンが、結核で39歳の生涯を閉じるまでを、画家ドラクロワとの友情を縦糸に、壮大なスケールで語る。緻密な考証と浩瀚な知識を背景に、あらゆる価値観が変質した近代の意味を芸術家の精神のうちに探る、本格的歴史小説。

ミューズメンバーズ俱楽部
会員募集中!

主催公演の優先予約&チケット10%割引
年会費2,000円 入会無料

チケットのお求めは ミューズチケットカウンター

TEL:04-2998-7777

チケットぴあ……0570-02-9999 <http://t.pia.jp/>
ローソンチケット…0570-000-407 <http://l-tike.com/>

発売:メンバーズ 10月1日 一般 10月8日
(主催)所沢市文化振興事業団 〒359-0042 所沢市並木1-9-1



ミューズ アート・プレミアム 90
ショパンを愛するあなたに

CHOPIN 本と音楽の素敵な午後

ナビゲーター:浦久俊彦(作家/音楽プロデューサー)

平野啓一郎



芥川賞作家

ピアニスト



© Yuji Hori

2017.2.18.土

14:15開場 15:00開演

全席指定:2,800円

所沢市民文化センター ミューズ マーキーホール
ミューズチケットカウンター:04-2998-7777

ショパンの魅力再発見! 音楽と文学の新しい出逢い。

音楽に深い造詣を持ちショパンの音楽を愛する第120回芥川賞作家・平野啓一郎と国際コンクールで活躍し「ショパン弾き」として注目を集める気鋭のピアニスト・三浦友理枝によるトーク&コンサート。とておきのエピソードや秘蔵の一曲でショパンの魅力に迫ります!

主催:所沢市文化振興事業団

二浦友理枝



「私のショパン。」

文は人なり、という言葉がありますが、音楽はどうでしょうか？
少なくとも、ショパンに関して言うと、それはまったく真実であったように思われます。
彼の非常に美しく、複雑で、陰翳に富んだ音楽は、彼の人間性そのものに根ざしたものでした。
だからこそ、ショパンは聴くことには喜びがあり、彼について語り合うことにもまた同様の喜びがあるのです。
ショパンを愛する人たちが、拙著『葬送』をずっと愛読してくれているのも、その故でしょう。
1日限りのこの特別な催しで、ショパンをみなさんと一緒に堪能できれば幸いです。

平野啓一郎 [芥川賞作家]

これだけは聴きたい

『ザ・ベスト・オブ・ショパン』

- フレデリック・ショパン Frédéric Chopin(1810~1849)
- アンダンテ・スピアナート ト長調 op.22より
 - 舟歌 嬢へ長調 op.60
 - ノクターン 第8番 変ニ長調 op.27-2
 - バラード 第4番 へ短調 op.52 ほか

ショパン年譜

1810年 ワルシャワ公国(現ポーランド)に誕生。
1818年 わずか8歳ではじめての公開演奏。
1826年 ワルシャワ音楽院に入学し作曲を学ぶ。
1829年 ワルシャワ音楽院を首席で卒業。ウィーンで演奏会。
1830年 ウィーンに向かう途上、祖国で武装蜂起がおこる。
1832年 2月26日、パリで初の演奏会。
1836年 マリアとの結婚が破談に。女流作家サンドと出会う。
1838年 サンドとの交際。マヨルカ島に滞在。
1847年 ジョルジュ・サンドとの間に不和が生じ離別。
1848年 2月26日、パリでの最後の演奏会。イギリスへ演奏旅行。
1849年 39歳。10月17日、パリのアパートで永眠。

芥川賞作家
平野 啓一郎 × 三浦 友理枝
ピアニスト
Tokorozawa MUSE ARTS PREMIUM
休憩なし90分のプレミアムなひととき



平野 啓一郎 [小説家]

1975年愛知県生。北九州出身。京都大学法学部卒。1999年学年中に文芸誌「新潮」に投稿した『日蝕』により第120回芥川賞を受賞。以後、数々の作品を発表し、各国で翻訳紹介されている。著書は『葬送』『滴り落ちる時計たちの波紋』『決壊』『ドーン』『かたちだけの愛』『モノローグ(エッセイ集)』『ディアローグ(対談集)』『私とは何か「個人」から「人間」へ』『空白を満たしなさい』。近著は、『マチネの終わりに』、エッセイ&対談集『生命力』の行方へ変わりゆく世界と人間主義』。



三浦 友理枝 [ピアノ]

英国王立音楽院の修士課程を首席で修了。ゲッティンゲン国際ショパンコンクール第1位をはじめ、マリア・カナルス国際音楽コンクール第1位、リーズ国際ピアノコンクール特別賞など目覚ましい成績をおさめる。これまでに東京フィル、読響、日本フィル、カイロ響などと共演。エイベックスより5枚のアルバムをリリース。「ショパン: 24のプレリュード」、「ミニチュアーズ」は「レコード芸術」誌にて特選盤に選ばれている。今年、新日鉄住金音楽賞受賞するなど、その演奏は各方面から絶賛を集めている。



浦久 俊彦 [作家・音楽プロデューサー]

フランスを拠点に作曲家、執筆家、プロデューサーとして活躍。帰國後、三井住友海上しらかわホールのエグゼクティブ・ディレクターに就任し、同ホールを世界に通用するホールに成長させた手腕は高く評価された。現在は、文学&音楽を融合させた「ブックカフェコンサート」など、常識にとらわれない、新たなコンサート・スタイルを提唱。著書『フランス・リストはなぜ女たちを失神させたのか』で話題を集めたほか、多くの雑誌にエッセイなどを執筆している。